

血圧低下時の心機能及び循環動態の検討

上尾中央腎クリニック

○佐藤 典明、坂井 翔太、村山 真大、高橋 正樹、長谷部 芙美恵、太田 恵、
島崎 沙由香、渡邊 ますみ、遠藤 清文、吉江 祐

【目的】心機能は、年齢、性別、および既往歴（糖尿病や心臓病）に影響を受ける。心臓パラメータは、血液透析治療中に大きく変動する可能性があることから、今回、当クリニックでは、ニプロ社製透析モニターHD02 及びカネカ社製皮膚灌流圧モニターPAD3000 を使用し、血圧低下時の心機能及び循環動態の検討を行った。

【対象】透析患者8名（男1名女7名、年齢 58.5 ± 19.5 歳、透析歴 9 ± 7 年）昇圧薬を使用していない透析患者を、DWからの月平均増加率と循環血液量変化率（以下BV）の4パターンに分類。

- A 月平均増加率5%以上・BV変動有
- B 月平均増加率5%以上・BV変動無
- C 月平均増加率5%未満・BV変動有
- D 月平均増加率5%未満・BV変動無 各2名ずつ計8名。

【内容】透析時血圧低下を起こしてしまう患者の、血圧低下前（HD開始30min以降）の実血流量・BV・心拍出量（以下CO）・皮膚灌流圧（以下SPP）、血圧低下時（HD開始2.5h以降）のBV・CO、血圧低下後（HD開始3h以降）のBV・CO・SPPを測定。

【結果】Dの患者は、血圧低下時の循環動態に大きな変化は見られなかった。しかしAの患者では、血圧低下時の心機能の低下やBV・SPPに著明な変化が見られた。また、B及びCの患者においても、血圧低下時に循環動態の変化が見られた。

【考察】透析中血圧低下を起こしてしまう要因はさまざま考えられるが、（急速な除水、plasma refillingの低下など）モニタリングにより、解決策を提案してゆければと考える。